

(表紙)

都道府県名	三重県
野菜指定産地名	いせ 伊勢
指定野菜の種別	秋冬ねぎ
指定年月日	昭和45年12月25日

## 生産出荷近代化計画書

計画樹立年月日 昭和 46年 8月 24日

計画変更年月日 平成 28年 5月 9日

野菜指定産地の区域 伊勢市、南伊勢町

関係農協等名 伊勢農業協同組合

(注) 関係農協等とは、野菜指定産地の区域の全部又は一部をその地区の全部又は一部とする農業協同組合又は農業協同組合連合会（都道府県の区域を超えない区域をその地区とするものに限る。）であって、当該指定野菜の出荷又は生産若しくは出荷に関する指導を行うもの及び法第10条第1項の登録を受ける資格を有する出荷団体又は生産者であって当該野菜指定産地を管轄する都道府県知事はその意見を聴くことを適当と認めたものをいう。

## 目 次

- 第1 区域の概況
  - (附表) 農業粗生産額
  
- 第2 指定野菜の生産及び出荷の近代化に関する基本的構想
  
- 第3 指定野菜の生産に関する事項
  - 1. 作付面積及び生産数量
  - 2. 収穫面積規模別農家数
  - 3. 耕種状況等
    - (1) 主要輪作体系及び耕種時期
    - (2) 栽培技術の改善
    - (3) 農業用廃プラスチックの処理方針
  - 4. 労働生産性の向上と労働力確保
    - (1) 10a 当たり総労働時間
    - (2) 年齢別農業従事者数
    - (3) 労働力確保、生産省力化のための具体的手段の現状と課題
  
- 第4 指定野菜の出荷に関する事項
  - 1. 流通先別出荷数量
  - 2. 用途別出荷機関別出荷数量
  - 3. 出荷先別月別出荷数量
  - 4. 出荷規格
  
- 第5 指定野菜の近代化に関する事業計画
  - 1. 現状
  - 2. 計画
  
- (参考資料)
  - 1. 資金計画
  - 2. 添付図

(計画作成上の注意事項)

1. 各表は、各地方農政局の地域センター、都道府県、市町村等の調査結果をもとに作成する。
2. この計画書の表中の現在の欄は、この計画書作成時の最近年次の実績により記入する。
3. 年次区分は、その主な収穫時期の属する年次（その主な収穫年次が2年にわたるときは、その主な収穫時期に係る収穫収量の多い年次）により行う。
4. 指定野菜には、乾燥等第1次加工されたものは含まない。指定野菜出荷数量のうち生食用とは、加工用（その出荷時において、加工用原料となることが確実であると認められるものをいう。）以外のものをいう。
5. 当該種別の指定野菜について露地栽培と施設野菜の2つの栽培型があるときは、施設栽培に係るものの数字は外数として括弧書きとする。
6. 目標年次とは、本計画に基づく計画樹立年度から起算して5年後の年次とする。
7. 第3の3(2)及び(3)、第3の4並びに第5は、必要に応じて作成する。

第1 区域の概況

(1) 自然的条件

当産地は、三重県の中東部、伊勢平野の南端部に位置し、年平均気温が15.3℃と温暖な気候の地域です。年間降水量は1,753mmで、6月の梅雨期と9～10月の台風期に集中しています。伊勢市では冬季の季節風は比較的強く吹き、初霜は11月上旬、終霜は4月中旬頃となっています。作付地域は、宮川河口左岸の砂壤土地帯に集中しています。南伊勢町は、伊勢市の南部に位置し、リアス式海岸で太平洋に面し、町域の85%を山林が占めています。平均気温は15.9℃と伊勢市より温暖であり、年間通して積雪はほとんどありません。

(2) 社会的条件

当産地は、平成17年11月1日に旧伊勢市、旧二見町、旧御薮村、旧小俣町が合併した伊勢市と、平成17年10月1日に旧南勢町と旧南島町が合併した南伊勢町を区域としています。地域の面積は450km<sup>2</sup>(県土の約4%)で、人口は約15万人です。

本地域には、古来から日本人の信仰の対象となっている伊勢神宮や伊勢志摩国立公園に代表される豊かな自然、また美味しい食材など、魅力ある観光資源があふれており、古くから観光都市として栄えています。特に、伊勢市は、神宮御鎮座のまちとして年間5万人を超える海外からの観光客が訪れており、国際的な観光都市としても発展しています。

これまで、名古屋には伊勢自動車道や東名阪自動車道を使うことで2時間弱で到着可能でしたが、平成20年に新名神高速道路が整備されたことで、京都にも2時間弱で到着できるようになり、東海圏と関西圏の両方にアクセスする利便性が高い地域となっています。

(3) 農業の動向

当産地は、ほ場整備等の土地基盤の整備が進んでいる伊勢地域と傾斜地が多い中山間地帯の南伊勢地域に大別されます。伊勢地域では、平坦な地形と比較的温暖的な気候を生かし、水稻を中心に施設園芸、畜産等の複合経営が行われ、経営規模が大きい農業が実施されています。南伊勢地域では、温暖的な気候と海に面した南斜面を活用した果樹栽培を中心とした少量多品目の農業が熱心に営まれています。

第2 指定野菜の生産及び出荷の近代化に関する基本的構想

この地域の伊勢湾に面した地帯が砂壤土で耕土が深く、地下水位も高いことから夏期の早害も少なく、ねぎ栽培に適していたため、作付けが増加し、昭和45年には、秋冬ねぎが指定野菜産地となりました。栽培面積は、昭和47年の53haを最高に漸減を続け、平成15年に30haまで減少しましたが、平成23年にパッケージセンターを建設し、ブランド化の徹底を図るなどした結果、平成25年には47haまで作付面積は回復しました。この流れを維持発展させるため、平成23年に整備したパッケージセンターの活用や高性能機械の導入により農家の大規模化を図るとともに、新規就農者の育成確保を進め、面積の減少に歯止めをかけます。併せて、需要に即した新しい出荷規格・方法の検討や優良品種の導入を進め、農家の経営安定を目指します。また、厳寒期でも良質な青ねぎが栽培できる南伊勢町での栽培を推進し、市場からの厳寒期の出荷量の安定確保に対する要望に対応します。

また、土壌診断に基づく肥培管理や、完熟堆肥の施用による土づくりを進めるとともに、病害虫の適期防除や栽培履歴記帳の徹底によって化学合成農薬使用を削減し、生産物の高付加価値化を図ります。

(附表)

農業粗生産額 (平成18年)

(単位:千万円、%)

市町村名	合計	耕 種													養 蚕	畜 産						加 工 農産物		
		計	米	麦類	雑穀	豆類	いも類	野菜			果実	花き	工芸農作物	その他作物		計	肉用牛	乳用牛	豚	鶏			畜産物 その他	
								果菜類	葉茎菜類	根菜類										鶏卵	その他			
伊勢市	534	494	208	4	-	1	6	178	-	-	-	17	77	3	1	39	12	4	x	8	x		x	1
南伊勢町	197	134	18	-	-	0	1	11	-	-	-	90	12	-	1	63	2	-	x	x	x		x	0
合計		628	226	4	-	1	7	189	-	-	-	107	89	3	2	102	14	4	x	8	x	0	x	1
同比率		100	36.0	0.6		0.2	1.1	30.1				17.0	14.2	0.5	0.3	0.0	16.2	2.2	0.6			0.0		0.2

(注) 第54次三重県農林水産統計年報より

### 第3 指定野菜の生産に関する事項

伊勢農協管内の青ネギ産地は、ネギの適地として約80年の歴史があります。平成20年には35haだった栽培面積ですが、平成25年には47haまで作付面積が増加しました。今後、作付を推進していく南伊勢地域は、冬季の季節風が弱く、伊勢地域よりも温暖であるため、冬期の出荷量の増加・安定が期待できます。

#### 1. 作付面積及び生産数量

(単位:ha、トン、kg、%)

市町村名	年次	項目	作付面積			生産数量			10a当たり生産数量		
			田	畑	計	田	畑	計	田	畑	計
伊勢市	5年前(H20年)			35	35		571	571		1,631	1,631
	現在(H25年)										
	A		46	46		609	609		1,330	1,330	
	目標(H30年)										
	B		48.5	48.5		679	679		1400	1400	
	対比B/A		105.4	105.4		111.5	111.5		105.3	105.3	
南伊勢町	5年前(H20年)			0	0		0	0		0	0
	現在(H25年)										
	A		0.1	0.1		1	1		2,082	2,082	
	目標(H30年)										
	B		3	3		33	33		1500	1500	
	対比B/A		3000.0	3000.0		3300.0	3300.0		72.0	72.0	
	5年前(H20年)		0	35	35	0	571	571	0	1,631	1,631
	現在(H25年)										
	A		0	46.1	46.1	0	610	610	0	1,332	1,332
	目標(H30年)										
	B		0	51.5	51.5	0	712	712	0	2900	2900
	対比B/A			111.7	111.7		116.7	116.7		217.8	217.8

(注) 作付面積及び生産量は野菜指定産地実態調査から転記

2. 収穫面積規模別農家数

(単位:戸、%)

市町村名	項目 年次	収穫 農家数	収穫面積規模別												
			5a 未満	5a~ 10a	10a~ 20a	20a~ 30a	30a~ 50a	50a~ 1ha	1ha~ 1.5ha	1.5ha 2ha	2ha~ 5ha	5ha~ 6ha	6ha~ 8ha	8ha~ 10ha	10ha 以上
伊勢市	現在(H25年) A	37	4	2	5	2	9	4	1	2	7	1	0		
	目標(H30年) B	37	3	4	0	0	5	3	11	4	5	1	1		
	対比B/A	100.0	75.0	200.0	0.0	0.0	55.6	75.0	1100.0	200.0	71.4	100.0			
南伊勢町	現在(H25年) A	1	1												
	目標(H30年) B	1								1					
	対比B/A	100.0													
計	現在(H25年) A	38	5	2	5	2	9	4	1	2	7	1	0	0	0
	目標(H30年) B	38	3	4	0	0	5	3	11	4	6	1	1	0	0
	対比B/A	100.0	60.0	200.0	0.0	0.0	55.6	75.0	1100.0	200.0	85.7	100.0			
	比率														
	現在	100	13.2	5.3	13.2	5.3	23.7	10.5	2.6	5.3	18.4	2.6	0.0		
	目標	100	7.9	10.5	0.0	0.0	13.2	7.9	28.9	10.5	15.8	2.6	2.6		

(注)1 施設栽培についての規模の区分は、次のとおりとする。

1a未満、1a~5a、5a~10a、10a~20a、20a~30a、30a~50a、50a~3ha、3ha~4ha、4ha以上

2 指定野菜が、ばれいしょの場合は、でん粉原料用ばれいしょを含めた数値のみを記入する。

3. 耕種状況等

(1) 主要輪作体系及び耕種時期

年度	タイプ	耕種時期																			比率	指定野菜の主要品種名	
		1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7			8
現在 (H25年)	伊勢版	夏	○●○●△●△●□●×●×●□																			25	鴨頭 緑秀
		秋冬	○●●○△●△●●●□●×●×●□																			55	
		初夏	○●●●△●●●●□●×●×●□																			20	
目標 (H30年)	伊勢版	夏	○●○●△●△●□●×●×●□																			23	鴨頭 緑秀
		秋冬	○●●○△●△●●●□●×●×●□																			52	
		初夏	○●●●△●●●●□●×●×●□																			19	
	南伊勢版	秋冬	○●●○△●△●●●□●×●×●□																			6	

(注) 耕種時期は記入例により記入する。ただし、○-○(は種期)、△-△(定植期)、□-□(収穫期)、×-×(収穫最盛期)とし、指定野菜名は括弧書きとする。

(2) 栽培技術等の改善

(3) 農業用廃プラスチックの処理方針

4. 労働生産性の向上と労働力確保

(1) 10a当たり総労働時間

(単位:時間、%)

項目	10a当たり総労働時間	10a当たり総労働時間の内訳								
		育苗	耕起整地基肥	定植(は種)	中耕・除草	追肥	栽培管理	防除	収穫・調製	その他
現在(年) A										
目標(年) B										
対比B/A										

(2) 年齢別農業従事者数

(単位:人、%)

市町村名	年次	項目	合計					男					女										
			計	16歳	30歳	50歳	60歳	65歳以上	計	16歳	30歳	50歳	60歳	65歳以上	計	16歳	30歳	50歳	60歳	65歳以上			
				29歳	49歳	59歳	64歳		29歳	49歳	59歳	64歳		29歳	49歳	59歳	64歳		29歳	49歳	59歳	64歳	
	現在(年) A																						
	目標(年) B																						
	対比B/A																						
計	現在(年) A																						
	目標(年) B																						
	対比B/A																						
	比率	現在																					
	目標																						

(3) 労働力確保、生産省力化のための具体的手段の現状と課題

#### 第4 指定野菜の出荷に関する事項

出荷数量については、平成20年は398t、平成25年には446tとなっており、県内および名古屋方面に4割程度、関西方面に6割出荷されています。共販率は7割程度となっており、パッケージングセンターの活用を進め、さらなる向上に努めます。平成30年の目標を目指し、作付け面積を増やすとともに、需要に即した新しい出荷規格・方法の検討し、出荷量を増加させます。

##### 1. 流通先別出荷数量

(単位:トン、%)

市町村名	流通先 年次	生食用		加工用		合計	主な出荷先名
		卸売市場向け	卸売市場以外向け	卸売市場向け	卸売市場以外向け		
伊勢市	5年前(H20年)	354			44	398	県印、中青
	現在(H25年)	425			21	446	県印、中青
	目標(H30年)	470			19	489	県印、中青
南伊勢町	5年前(H20年)	0			0	0	県印、中青
	現在(H25年)	1			0	1	県印、中青
	目標(H30年)	33			0	33	県印、中青
計	5年前(H20年)	354	0		44	398	県印、中青
	現在(H25年)	426	0		21	447	県印、中青
	目標(H30年)	503	0		19	522	県印、中青

2. 出荷機関別出荷数量

(単位:トン、%)

市町村名	年次	項目							計	共販等率
		農協連合会	農協	任意組合	商協	商人	大規模生産者( )	その他		
伊勢市	5年前(H20年)		286				( )	112	398	71.9
	現在(H25年)		308				( )	138	446	69.1
	目標(H30年)		364				( )	125	489	74.4
南伊勢町	5年前(H20年)		0				( )	0	0	
	現在(H25年)		1				( )	0	1	100.0
	目標(H30年)		33				( )	0	33	100.0
計	5年前(H20年)		286				( )	112	398	71.9
	現在(H25年)		309				( )	138	447	69.1
	目標(H30年)		397				( )	125	522	76.1

(注)1 出荷数量とは、野菜指定産地の区域内で生産され、その区域から販売するために市場等へ出された当該指定野菜の数量をいう。以下同じ。

2 共販等率とは、出荷量に対する、共販(農協連、農協その他の共同出荷組織による出荷数量)及び大規模生産者(法第10条第1項の登録を受ける資格を有する生産者(実際に登録を受けているかは問わない。))による出荷数量であって、共販に含まれないものをいう。)による合計の出荷数量の割合をいう。

この共同出荷組織には、任意組合も含むが、これも出荷調整が可能な団体であり、定款又は規約及び代表者を有し、特定の構成員の加入脱退にかかわらず存続する組織に限る。また、共同出荷組織による出荷数量とは、その共同出荷組織の責任において、それについて荷の引渡し、代金決済等の販売行為が行われる出荷数量をいう。

3 年次は5年前、現在及び目標とする。

4 大規模生産者の欄には共販に含まれない出荷数量を記入するとともに、同欄の( )に、共販に含まれる出荷数量を外数として記入すること。

3. 流通先別月別出荷数量

(単位:トン)

区分	ブロック	年次	種別の期間 (該当に○)												計	種別の 期間計 (○印の 月の計)		
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
生食用	卸売市場向け	東海	現在(H25年)								○	○	○	○	○	○	131	131
			目標(H30年)								○	○	○	○	○	○	158	158
	関西	現在(H25年)										○	○	○	○	○	163	163
		目標(H30年)										○	○	○	○	○	192	192
	合計	現在(H25年)	0	0	0	0	0	0	0	0	50	50	54	50	35	55	294	294
		目標(H30年)	0	0	0	0	0	0	0	0	58	59	63	60	45	65	350	350
卸売市場以外向け	現在(H25年)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	
	目標(H30年)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	
加工用	卸売市場向け	東海	現在(H25年)								○	○	○	○	○	14	14	
			目標(H30年)								○	○	○	○	○	14	14	
	関西	現在(H25年)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	
		目標(H30年)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	
	合計	現在(H25年)	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	3	3	2	1	14	14
		目標(H30年)	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	3	3	2	1	14	14
卸売市場以外向け	現在(H25年)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	
	目標(H30年)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	
計	現在(H25年)	0	0	0	0	0	0	0	0	52	53	57	53	37	56	308	308	
	目標(H30年)	0	0	0	0	0	0	0	0	60	62	66	63	47	66	364	364	

4 出荷規格

出荷規格については、基本的に長さによって5段階に分けられている。また、太さ・規格外・病虫害等については別途定めている。今後、出荷規格についても見直しが必要であれば、検討を行う。

ねぎ出荷規格表

階級	個数
優 2L	75cm以上80cm以下
秀 2L	70cm以上75cm以下
秀 L	58cm以上70cm以下
秀 M	51cm以上58cm以下
優 M	46cm以上51cm以下

第5 指定野菜の近代化に関する事業計画

共同利用集出荷施設(パッケージセンター)等、現在までに整備導入した機械・施設については、拡大した産地内で融通して活用し、より効率の良い利用を進めます。また、新たに栽培を始める農家については、定植機や皮剥機、保冷库の導入を推進し、効率的な面積拡大を図ります。

1. 現 状

導入事業名	市町村名	事業実施主体名	受益範囲		事業の内容	工種又は施設区分	構造・規格能力等	事業量	導入年度	備考
			戸数	面積又は処理量						
食料自給率向上・産地再生緊急対策交付金	伊勢市	伊勢農業協同組合	戸	ha(t)	集出荷貯蔵施設	集出荷貯蔵施設一式	鉄骨スレート葺	集出荷貯蔵施設建物1棟(1052.3㎡) 洗浄調整ライン3台 計量・結束・包装ライン3台 予冷設備1式 梱包機1台	H22	

(注)

- 1 現在、指定野菜の生産出荷等に関係している施設等で、補助、融資事業により導入したものについて記入する。
- 2 受益範囲の欄については、区域の当該指定野菜の受益戸数及び受益面積(集出荷貯蔵施設については処理量)を記入する。  
なお、指定野菜がばれいしょの場合は、でん粉原料用ばれいしょも含めたばれいしょの総計を括弧書きで上段に記入する(以下同じ)。
- 3 導入事業名の欄には、これら施設等を導入した補助、融資等の事業名を記入する。

2. 計画

助成区分	市町村名	事業実施主体名 (見込)	受益範囲		事業の内容	工種 又は施設区分	事業量	導入年度 (見込)	備考
			戸数	面積は 又は 処理量					
補助事業			戸	ha(t)					
農業改良資金									
融資事業等									

(注) 1 当該指定野菜の生産出荷等の近代化のために、本計画の目標年次まで実施される予定の補助、融資事業について記入する。

2. 事業の効果及び改善方策(実績報告の時のみ記入)

事業の目的に即して生産組織の機能、土地生産性(収量、品種、生産費等)、労働生産性(労働時間等)、作付体系、土地利用効率、作業体系、流通の合理化、機械の有効利用等について、その改善状況、事業の目標達成状況を総括的に記述すること。なお、事業の目標に対して立ち遅れている場合は、その理由及び改善計画について記述すること。

(参考資料)

1. 資金計画

助成区分	事業種目	事業実施主体(見込)	事業の内容	工種又は施設区分	事業量	単価	所要資金額	所要資金の調達方法(千円)						導入年度	備考	
								補助金			近代化資金	公庫資金	その他			自己負担
								国	都道府県	市町村						
							千円									
補助事業	計															
	計															
農業改良資金																
	計															
融資事業等																
	計															

(注) 1. 第5の2の計画に記入した事業について記入する。

2. 所要資金の調達方法のその他の欄に該当する場合は、備考欄にその具体的な方法を記入する。

2. 添付図

野菜指定産地の区域全体を表わす位置図1枚を添付する。

この位置図は、縮尺を明記した既存の地図を用いて次により作成する。

- (1) 農業振興地域及び農用地区域を図示する。
- (2) 指定野菜の区域を黒線で囲み、本計画樹立年の作付面積を記入する。
- (3) 目標年次の指定野菜の作付区域を緑線で囲み、目標年次の作付面積を記入する。
- (4) 役場、農協等の公共施設並びに指定野菜の生産及び出荷に関する既存の農機具格納庫、集出荷施設等の位置を黒丸を付して記入する。  
(その施設等が補助事業等で導入された場合は、その事業名等を付記する。)
- (5) 指定野菜の作付区域(現在及び目標)に関係する土地基盤整備の実施済地区を青色で図示する。  
(農道、かんがい施設等については、路線を青線で図示し、その受益範囲を青色の斜線で示す。)
- (6) 第5の2の補助事業の欄の土地基盤整備については、計画区域を赤色で図示(農道、かんがい施設等については、路線を赤線で図示し、その受益範囲を赤色の斜線で示す。)し、生産管理機械施設、集出荷貯蔵施設及び産地管理施設については、当該施設等の設置又は保管計画場所の名称を付して赤丸で図示する。
- (7) 第5の2の農業改良資金及びその他補助、融資事業の欄の生産管理機械施設等については、(6)と同様に黄色で図示する。